

# OMU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OMU students



## プロフィール (Profile)

氏名 (Name) 原田 歩実  
所属 (School) 商学部 商学科  
学年 (Grade) 2年

留学先 (Name of overseas institution)  
アンドリュース大学 Andrews University

留学期間 (study abroad period)  
2022/8/15~2022/12/16

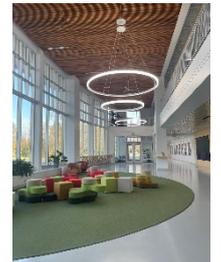
記入日 (Date) 2023/1/4

## 留学レポート Study Abroad Report

2022年の8月から、交換留学生としてアメリカのアンドリュース大学へ1セメスター派遣されました。私は、幼い頃から海外のドラマや音楽が好きで、英語に興味がありました。小中学生の時は英会話教室に通い、高校時代は2週間程度のオーストラリア留学を経験しました。このような経験から、大学在学中に1度は長期の留学をしたいと考えていましたが、コロナウイルスの影響から恐らく無理だろうと諦めていましたが、アンドリュース大学への留学を見た時に挑戦しようと決心しました。

### 「アンドリュース大学について」

まず、アンドリュース大学について紹介します。この大学はアメリカの中西部であるミシガン州にあります。中西部は比較的日本人留学生が少なく、アンドリュース大学にも片手で収まるほどの日本人しかいませんでした。学校のある場所は田舎で、周りには小さなスーパーとチェーン店が5つほどあるだけなため、治安の心配はいりません。学校内には、大きな教会、プール・サウナ付きのジム、カフェテリア、売店、コンサートホールなど設備が充実しています。ほとんどの学生は勉強の息抜きにジムへ行ったり、週末は音楽学部のコンサートを観に行ったりなど、学内で過ごすことが多いです。生徒数がとても少なく、みんなフレンドリーなので、オリエンテーション期間にほとんどの人と顔見知りになれます。また、近くに住んでいる生徒以外は寮で暮らしているため、友達が作りやすい環境だったと考えます。(左:教会、右上:ジムのエントランス、右下:カフェテリアの外見)



### 「授業」

私は ESL という文法や読解、リスニングなどに特化した留学生向けの授業に加え、会計の授業も受講していました。ESL の授業を取るメリットは2つあります。1つ目は、英語を英語で学ぶという日本ではできない経験が出来るということです。内容は受験勉強の延長のようなものでしたが、英語で学ぶことによって、新しいことに気付いたり、ネイティブの言い回し、使い方なども学ぶことができます。2つ目は、時間に余裕を作ることが出来るということです。やはり、ESL の授業に比べて学部の授業の難易度は高く、かけないといけない勉強量も多くなります。私は、休日丸一日会計の勉強をした時もよくありました。そのため、学部の授業を4つもとってしまうと、勉強が追い付かなくなる可能性もあります。ESL を受講しているのは大人が多いため、学部の授業を取った方が授業内で同世代と関わる機会が増えるというメリットもありますが、留学前からしっかりと予習をする必要があります。

次に、アンドリュース大学に留学するメリットを3つ紹介します。

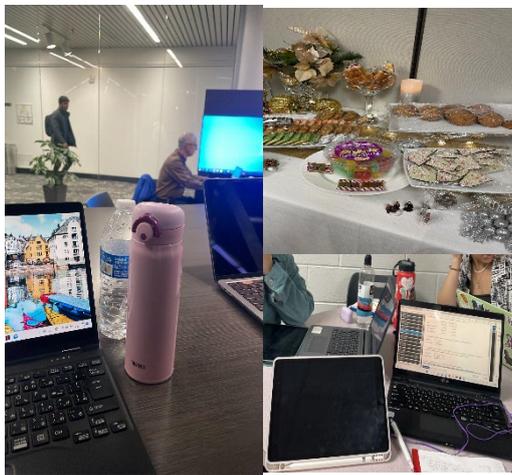
1つ目は日本人の少なさです。最初にも述べた通り、日本人がほとんどいないため、自然に英語を話すしかない状況を作れます。もし、私が何人かの日本人と留学していたら、きっとその人たちと多くの時間を過ごし、英語が話せなくても何とかなる環境に甘えていたと思います。日本人が珍しいので、日本の話をしたりするとみんな興味を持って聞いてくれます。また、留学期間中に出会った数少ない日本人の友達に、デトロイトにある日本人コミュニティにつれていってもらったことも出来たため、定期的に日本語に触れる日も作ることが出来ました。言葉が通じない環境は、つらいことがとても多いと思いますが、英語力を本気で向上させたい人にとって完璧な環境だと思います。(左: 各国代表の生徒が旗をあげる学校のイベント、右上: デトロイトの家の柴犬、右下: 日本人の集まりで食べたほうとう)



2つ目は、イベントの多さです。アンドリュース大学に限らず、アメリカの大学は毎週のように学校のイベントがあり、学外に遊びに行かなくても十分楽しめます。1週目はオリエンテーションウィークで、スポーツの試合やビーチデイ、BBQなどがあり、それらに参加することで友達を作ることが出来ました。すべての1年生が10人ごとのグループに分かれ、そのグループのMentorとして上回生が付き、1学期間何かあれば相談に乗ってくれたり、遊びにつれて行ってくれました。フィリピンクラブやラテンクラブなどがあるため、色々な国の文化に触れることが出来るイベントや、学年対抗のゲーム大会もありました。これらのイベントは日本の大学で体験できないことなので、とても印象に残っています。普段は勉強ばかりの日々だったので、こういったイベントが良い息抜きになりました。(左から、オリエンテーションウィークのイベント、ボランティア活動をする日の打ち上げ、学年対抗のイベント、Latino パーティ)



3つ目は、先生との距離の近さです。留学生にとって授業の内容を理解することはかなり大変です。私は3時間ぶっ通しの会計の授業を受講していたのですが、予習復習をしても、授業の内容を完璧に理解するのは最後まで出来ませんでした。そのため、私は毎週先生にzoomで振り返りをしたり、わからないことを聞いたりする時間を作ってもらっていました。先生は生徒に自分の電話番号を伝えることが多く、メールより messages という LINE のようなアプリで連絡を取ることが多く、日本との違いの1つだと思いました。私は pre-med という医学部の友達が多く、その校舎で勉強することが良くあったのですが、珍しいものを見せてくれたり、寒い日は温かいドリンクを作ってくれたりしました。他の授業の先生たちも、夜ご飯に招待してくれたり、寒い日用の服を譲ってくれたりしました。勉強以外にも、友人関係や食事の相談も親身に聞いてくれる先生が多いイメージです。留学生活は悩むことが多く、相談できる大人は心強い存在でした。(左: 教室、右上: フリーお菓子、右下: 友達と勉強する様子)



留学を通して、とても貴重な体験をたくさんすることが出来ました。留学生活は想像以上に辛いこと、大変なことがありましたが、大切な友達と出会うことが出来たし、大学生活中に24時間英語に集中できる環境で生活することが出来て良かったです。日本に帰ってきて、英語に触れる機会を作る難しさを実感しています。留学を通して得たものを向上させ続けるためにも、勉強し続けます。英語に集中したい人にとって、この留学プログラムはぴったりなので、今回から始まったアンドリュース大学との交換留学がこれからも続き、多くの人がこのレポートを通して興味を持ってもらえれば嬉しいです。